

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2022 年 3 月 31 日
報告者	押 栗 泰 代
助成団体名 (所属団体名)	認定特定非営利活動法人マイママ・セラピー
団体住所	〒 520-0042 滋賀県 <small>都道府県</small> 大津市中央1丁目8番6号
団体電話番号	077 — 511 — 9301
代表者 (助成対象者)	押 栗 泰 代
助成対象事業	大津産前産後ケアステーション立ち上げ
事業（助成）期間	2021 年 4 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 31 日
事業費総額	1,000,000 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承**を頂くようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

2000年4月～大津市内で母子を中心に産後少しでも早い時期にケアができる体制を構築してきた。

2011年4月～商店街の中にマイママ house に拠点をもち、お母さんと赤ちゃんのほけんしつとして、特に産前産後の女性とその家族のケアを中心に訪問・相談・講座の展開をおこなってきた。

2021年もっと地域に公衆衛生看護を展開できる人材の育成ということでマイママ・セラピーと市内の女性起業家のあつまる SP-WOMON が中心となって、大津市内の中で活躍する助産師を対象に、開業を目指した起業塾を開催しはじめた。

【ケアステーションを立ち上げるためのスキルアップ講座の開催】

1. 生き方・活かし方
2. 助産師の働き方～開業することの意味～
3. 保育の視点からみる子どもの成長発達

その矢先に新型コロナウイルス感染症が蔓延し、各地での催事が軒並み中止となり相談する場所や相談できる人の存在をもとめてマイママ house に多くの方が来られるようになった。マイママ house では地域の人に向けて「まちのほけんしつ」としての居場所を提供しながら、保健師・助産師・歯科衛生士・保育士による相談や講座を2021年6月から再開することにした。

【2021年6月～マイママ house でのほけんしつ再開】

1. 不定期ではあるが、月に3日～6日間10時～16時まで開館
2. 特に新型コロナウイルス蔓延以降は母子特化を外し、誰でも利用いただける形にした

特に、赤ちゃんの健診が中止になったり延期になったりと発達に不安を抱える人が増えたこと。地域でこれまで使用できていた社会資源が減少してきたことが育児をする人だけではなく高齢者の心にも大きな影響を及ぼしていた。こうしたことを受け、2021年マイママ house を中心に、開業を目指していた助産師が協力。まずは大津市内で産前産後ケアを提供できるチームの創設と、身近なところで相談や講座を開催できるような仕組みを作り上げた。

【新型コロナウイルス蔓延による助産師及び保健師・歯科衛生士による産前産後ケアの提供】

1. オンラインによる相談と各種母子講座の開催
2. 訪問型ケアの提供
3. 地域住民を対象としたマイママ house でのほけんしつ対応

【看護学生による実習機会を活用して】

1. 商店街の中でまちのほけんしつ実施
2. 年代に関係なく誰でも相談ができるよう配慮

【商店街との連携】

1. 8月26日 子どもの居場所づくり開催
2. 12月26日お餅つき大会

3、事業成果

【ケアステーションを立ち上げるためのスキルアップ講座の開催】

10人の助産師が参加し学びを共にした。講座も対面からオンライン形式で開催。新型コロナ蔓延後の地域支援に関しては、スキルアップをしてきたことをアウトプットする場として、オンラインによる講座や相談の場を設けたいと参加をしていた助産師から声が上がリ、実施につながっていった。

1. 生き方・活かし方 参加者 11人 専門職講座
2. 助産師の働き方～開業することの意味～（オンライン開催）42人 全国から参加申し込みあり、遠くはシドニーからも参加された。
3. 働く場を創り出す 参加者 10人 起業家による新しい働き方について指導を受ける
4. 災害時の対応について 防災保健師による実践講座（人数限定開催）8人
5. 保育の視点からみる子どもの成長発達 参加者 11人 保育士による成長発達講座を地域のパパママを対象に実施
6. 子どもの口腔衛生 参加者 11人 歯科衛生士によるパパママ講座

【2021年6月～マイママhouseでのほけんしつ再開】

3. 不定期ではあるが、月に3日～6日間10時～16時まで開館
4. 特に新型コロナ蔓延以降は母子特化を外し、誰でも利用いただける形にした
2022年度 44日開館 利用者数 2,962人
「ご縁市」と称して、利用しやすい雰囲気を作り出し、時間のある人は部屋の中でお茶を飲みながらゆっくりとお話をする時間を設けた。母子については主に助産師が対応。

【新型コロナ蔓延による助産師及び保健師・歯科衛生士による産前産後ケアの提供】

1. オンラインによる相談と各種母子講座の開催 80回開催 250人参加
主なテーマとしては「離乳食（初期・中期・後期）妊娠期の生活・赤ちゃんの成長と発達・育児相談
最初のころは周知不足もあり助産師の活動範囲内での利用者だけだったが、事務方の努力により、全国各地からの参加へと広がりを見せた。なかなか集団では直接話せないこともあり、その場合は個別相談へと切り替えながら対応をおこなった。
夜間相談もあり、深夜に及ぶこともあった。（0時以降に及ぶ深夜相談3人）
2. 訪問型ケアの提供 訪問者数 8人 ゆりかごタクシーつながりで、訪問を希望される方や、ホームページを通して依頼のあった方の自宅へ訪問した。産後かなり早期での訪問となり、非常に喜ばれることが多かった。
3. 地域住民を対象としたマイママhouseでのほけんしつ対応 開館日に合わせて 当番制で助産師・保健師・歯科衛生士・保育士が必ず一人以上は当番で入る。目的の助産師や保健師を目当てに来られたり、歯科相談日には乳歯の相談に来られたりする方もあった。

【看護学生による実習機会を活用して】

- ・商店街の中でまちのほけんしつ実施 50の方が学生とお話をしていかれた

【商店街との連携】

- ・8月26日 子どもの居場所づくり開催 約300人参加
- ・12月26日お餅つき大会 約200人参加

4、今後の課題など

新型コロナウイルス感染症は地域の社会資源を著しく奪っていった。多くの人が行き場を失い、社会生活が混乱していく姿を目の当たりにした2年間だった。

マイママ・セラピーは地域の中で活動を展開する保健系の医療職で、社会保障制度を受けられない人々をこれまでもケアしてきた。特にこの2年は見通しを持たない毎日で妊産婦のケアが通常とは異なることが多かった。しかし、母子のみならず、高齢者からも「私らの居場所も作って！！」という声が非常に多かった。この1年間の利用者数をみても、それが分かる。

民間施設が地域の中で住民を応援する機会を増やすことで、利用する人にとっては自分が利用したいサービスを選択する機会が増える。居場所を増やすことでコミュニケーションを増やしたり、困りごとを相談できたりする機会はある程度現状を維持できることが好ましい。

多くのママたちは、専門的な相談や講座の機会を求めている。この1年を通して大津で開業する助産師・保健師の創り上げた産前産後ケアチームはある程度役割を果たせたのではないかと考える。

この1年間を通して、アウトプットできる機会に恵まれたことで、さらにスキルアップができた。開業する助産師も5人存在した。

現在マイママ・セラピーを拠点とした大津市内で活動をする助産師・保健師チームであるが、もっと各地の専門職と連携をしていくための仕組みができることで、アウトリーチ型のケアが大きく展開できる可能性もでてきたことは有効な結果である。

この1年はチームとしてそれぞれが仕事の合間をぬって地域の産前産後を中心とした活動展開をしてきた。今後の展開としてはマイママ・セラピーから独立をして個人の仕事の中での産前産後ケアが中心となる。しかし、ようやく形なりかけたケアの方法を継続するために、一人一人の助産師と保健師が集まり、新たなチーム活動として産前産後に加えて「子どもたちの生教育」「思春期ケア」「虐待予防」へと事業を発展・拡大していくための意思決定をおこなった。

マイママ・セラピーは保健師・助産師・歯科衛生士・保育士が民間で活動する団体です。医療ではない。福祉とも異なる。地域の中で生活をする人たちが安心して暮らすための健康へのお手伝いをしている団体です。

妊娠・出産は心身ともに大きなエネルギーが必要です。なかなか、理解してもらうことが難しい時もあります。誰にも相談ができないとき、困っているとき、ご本人からではなくご家族の方からのご相談にも応じています。

滋賀県で安心して産み育てることができる環境を創り出したい。と熱い思いで、日々活動を展開しています。